

平成二十年産米の 生産調整について

質問(花塚直孝議員)平成二十年産米の生産調整目標面積はどのくらい伺います。

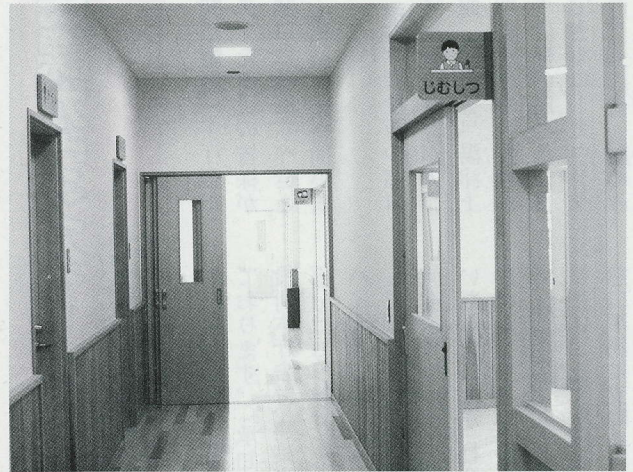
答弁(市長)栃木県から通知された平成二十年産米の需要量に関する情報は、三万六千四百四十トン、対前年比97.3%となっており、削減量は九百九十六トン、面積換算で約百九十四ヘクタールの転作拡大が求められました。削減量九百九十六トンの内訳は、消費減少等によるものが九百十ト

ン、新たな仕組みの中で、過剰作付に対するペナルティー分として八十六トンが含まれています。国・県段階での削減量に占める過剰作付相当削減量、いわゆるペナルティー分の割合は、国が30.8%、県が19.5%となっており、本市においては、この割合が8.6%に留まっており、過剰作付割合は県平均を下回っている状況にあります。本市の平成二十年産米の作付目標面積配分率につい

ては、まず平成十九年度生産調整実施者については62.6%、ただし、反収が平均より約六十キログラム少ない須賀川地区においては67.7%となっており、平成十九年度配分率に比較し1.6%、須賀川地区の場合には1.9%それぞれ減少しております。平成十九年度生産調整未実施者には、生産調整実施者と同様の算定をした上で、過剰作付に対するペナルティー分の八十六トン分をさらに控除して、市と大田原市水田農業推進協議会の連名で、農業者別需要情報量として通知をしたところであります。



目標未達成の場合都道府県や地域にペナルティが課される



木材がふんだんに使われ暖かな雰囲気の内

しんとみ保育園について

質問(五十嵐孝夫議員)現代の保育事情に合ったすばらしい保育園が完成したところでありますが、しんとみ保育園の管理運営について伺います。

答弁(保健福祉部長)しんとみすみよし保育園統合は、新市建設計画主要事業の一つに位置付けられた事業で、平成十八年度・十九年度に定員二百人、受け入れ可能園児二百五十人の保育園として整備を進め、子育て支援センタ

ーを併設し、バリアフリー、太陽光発電並びに床暖房システムを配備した環境に優しい保育園としてこの度竣工となりました。この三月に保育園を卒園する園児の皆さんにも、新しい保育園で保育を体験して貰おうと考え、しんとみ保育園児は、去る三月三日から、すみよし保育園児は、三月二十四日から新しい保育園での保育を開始しております。四月一日からの入所園児数は二百三十二

人を予定しています。本市では最大の保育園となりますが、厚生労働省では児童福祉施設保育士配置基準を定めており、新保育園でも基準どおりの配置を考えておりますので、他の保育園同様、市の保育目標に沿っての保育がなされるものと見ております。更に、現在市内の公立保育園の主任保育士が中心となり、より良い保育を目指して、保育士マニュアルの作成を進めておりますので、新年度からはこのマニュアルに沿って保育を進め、保育内容そのものがより均一化されるものになっていくと期待しております。